

釜石市抜粋版

岩手県立病院等の経営計画 (2025－2030)

(素案)

令和6年8月
岩手県医療局

1 計画策定について

1 計画策定の目的

- 「岩手県立病院等の経営計画〔2019-2024〕」は、令和6年度（2024年度）が計画最終年度となっている。
- 限られた医療資源において、**医療の高度・専門化**や、**人口減少**等による**医療需要の変化**に**的確に対応し、地域医療を確保**しながら、**持続可能な医療提供体制を構築**するためには、**県立病院間の役割分担の明確化・最適化**をより一層進める必要があり、また、**危機的な経営状況**のなか、**安定した経営基盤の確立**を図るべく、計画を策定するもの。

2 計画の位置づけ

- 「岩手県立病院等の経営計画〔2019-2024〕」に続く、**新たな経営計画**であり、令和4年3月に総務省が策定した「**公立病院経営強化ガイドライン**」に定める「**公立病院経営強化プラン**」として位置付ける。
- 県が令和6年度（2024年度）から6年間の医療政策の方向性を定めた「**岩手県保健医療計画（2024-2029）**」を踏まえた計画とする。

3 計画の期間

- 計画期間は、**令和7年度（2025年度）**から**令和12年度（2030年度）**までの**6か年**とする。
- 介護保険事業計画の見直し等に合わせて、「**岩手県保健医療計画**」の**中間見直し**が**3年後（令和8年度）**に行われることから、**その内容等を踏まえて**、本計画についても**3年後に中間見直し**を行う。

2 県立病院を取り巻く環境（保健医療計画）

- 岩手県保健医療計画（2024-2029）では、医療の高度・専門化やデジタル化の推進、道路環境の整備、患者の受療動向等を踏まえ、県民に提供する高度・専門的な医療のさらなる質の向上、持続的な医療提供体制を確保するため、**疾病・事業別医療圏**を設定
- 既存の周産期、精神科救急のほか、**がん、脳卒中、心血管疾患**について、新たに**疾病・事業別医療圏**を設定

<今後の保健医療圏のあり方>

二次保健医療圏（地域密着）

- 疾病・事業別医療圏を踏まえ設定
- 例えば日常生活圏で住民に密着した保健医療需要（救急を中心に）を提供するため設定する地域単位 など

疾病・事業別医療圏の検討から
「地域密着」として必要な医療を明確化

疾病・事業別医療圏（広域化）

- 医療の高度・専門化、デジタル化の推進を踏まえ設定
- 既に設定している、周産期医療や精神科救急医療、医療資源（医師配置、医療機器など）を参考

<参考> 国の医療計画作成指針より抜粋

5 疾病・6事業及び在宅医療のそれぞれに係る医療連携体制を構築する際の圏域については、従来の二次医療圏に拘らず、患者の移動状況や地域の医療資源等の実情に応じて弾力的に設定

三次保健医療圏（岩手県：1圏域）

【医療圏設定の考え方】

- 医療法に基づく整理（本県も同様の整理）
 - ・二次保健医療圏との有機的な連携のもとに、特殊な医療を提供する単位

がん（5圏域）

- **がん拠点病院とがん診療病院のグループ化**などを踏まえ設定
- 以下の役割分担
 - ・**身近ながん医療（地域密着）** ※二次保健医療圏単位（診療病院など）
⇒検診や手術又は薬物療法による標準的治療、緩和ケア、在宅療養支援 など
 - ・**高度・専門的ながん医療（広域化）** ※疾病・事業別医療圏単位（拠点病院）
⇒高機能の医療器械（ロボット、高精度ナリニアック等）等を活用した集学的治療の実施 など

脳卒中（7圏域）

- **既に実施されている気仙・釜石圏域の医療連携体制や、今後実施を予定している胆江・両磐圏域の医療連携体制の変更**を踏まえ設定
- 以下の役割分担
 - ・**身近な脳卒中医療（地域密着）** ※二次保健医療圏単位
⇒軽度の脳梗塞への初期治療としての薬物治療、回復期リハビリ など
 - ・**高度・専門的な脳卒中医療（広域化）** ※疾病・事業別医療圏単位
⇒脳梗塞に有効なT-PA療法や緊急の外科的治療 など

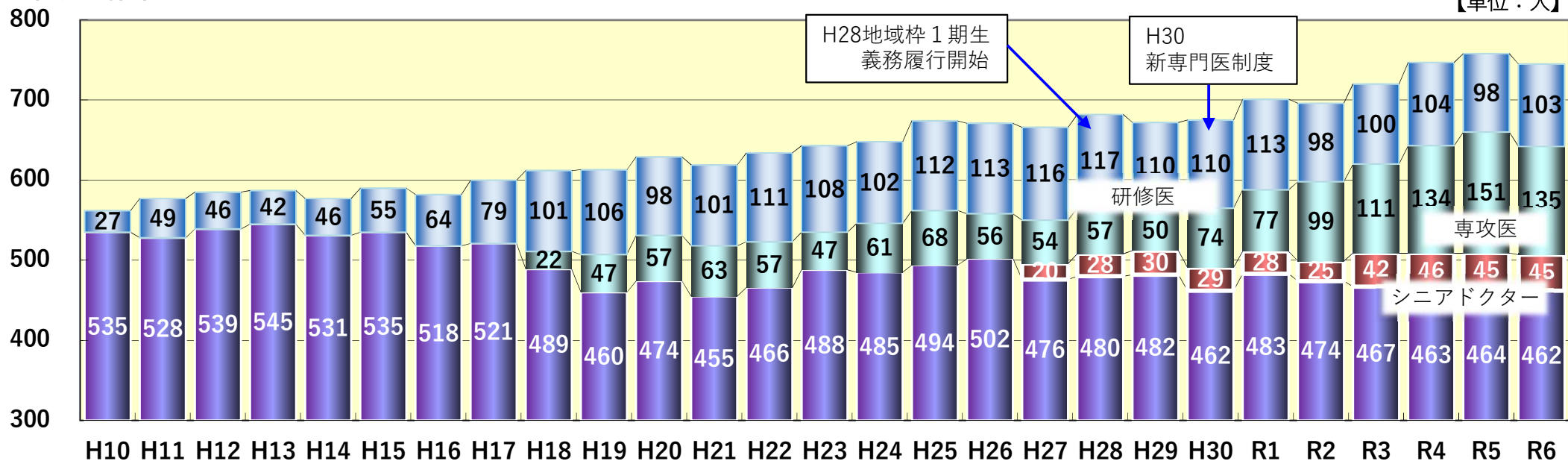
心血管疾患（8圏域）

- **既に実施されている気仙・釜石圏域の医療連携体制**を踏まえ設定
- 以下の役割分担
 - ・**身近な心血管疾患医療（地域密着）** ※二次保健医療圏単位
⇒軽度の心疾患への初期治療としての薬物治療、回復期リハビリ など
 - ・**高度・専門的な心血管疾患医療（広域化）** ※疾病・事業別医療圏単位
⇒狭窄した心臓の冠動脈を拡張するPCI治療、大動脈解離への緊急外科的治療 など

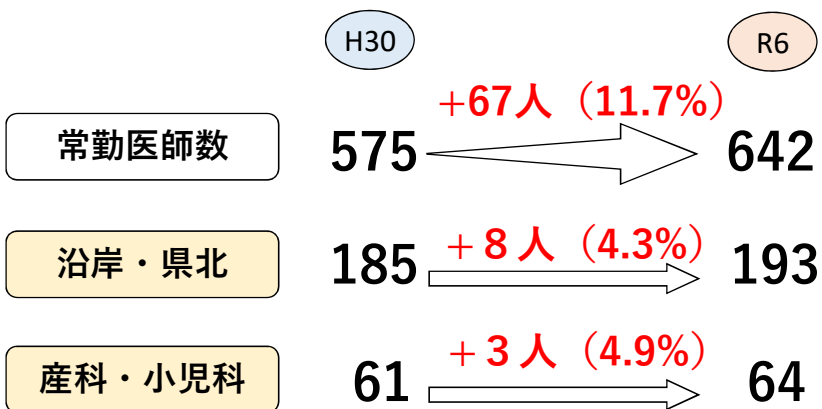
3 県立病院の経営状況（職員数の状況①）

- 医師数は増加傾向にあり、年齢が若い**専攻医**（主に奨学金養成医師）や**シニアドクター**（65歳以上）の増によるところが大きい
- 医師配置が進む一方、**地域偏在、診療科偏在が未解消**
- 医師の**年齢構成が二極化し、中堅層の医師が以前に比べて不足**

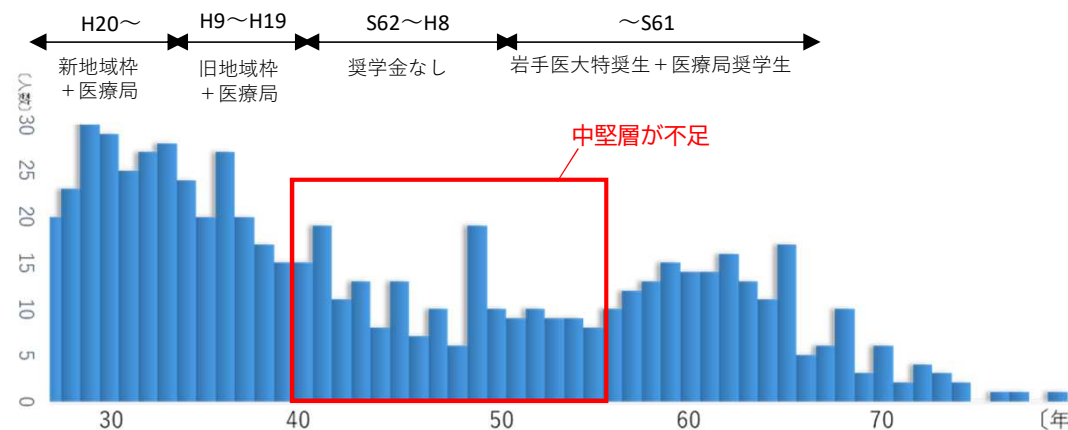
医師数の推移



地域偏在、診療科偏在



医師の年齢構成 (R5)



4 岩手県立病院等の経営計画（2025-2030）の基本方向

医療の高度・専門化や、人口減少等による医療需要の変化に的確に対応し、地域医療を確保しながら、持続可能な医療提供体制を構築するため、県立病院間の機能分化と連携強化を一層推進

《医療の高度・専門化》

- ・患者を中心に各領域の専門医による**チーム医療**が進展
- ・限られた**医療資源の分散**は、県全体として**医療の質の低下**を招きかねない状況

《人口減少等による医療需要の変化》

- ・人口減少、**高速交通網の整備**等による**医療需要の変化**

《医療従事者の不足》

- ・医師の**絶対数の不足**と**地域・診療科偏在**
- ・薬剤師、看護師等の**医療従事者の不足**

《医師の働き方改革》

- ・R6～**医師の時間外労働規制**の開始

① 県民に、**県内で高度・専門医療を安定的に提供**できる体制を確保

- ・整備された**高速交通網をフル活用**
- ・医療機能を一定程度集約し、**症例数・手術数を集める【ハイボリューム化】**
- ・**専門人材確保、高度医療器械の重点整備**

② 民間病院が立地しにくい地域では、**県立病院が、身近な医療を継続的に提供**

- ・中核病院での高度手術の後は、**地域の病院に治療の場を移し、患者の居住地により近い場で医療を受けられるよう、連携を強化**
- ・**初期救急、回復期、リハビリ機能の強化等**

《各病院の機能分化・連携強化について①》

- 基幹病院、地域病院について、対象となる地域の人口の状況等を踏まえ、必要となる機能を整理
- 疾病・事業別医療圏を踏まえ、整備された高速交通網をフル活用して、県内で高度・専門医療を安定的に提供できる体制を確保しつつ、民間医療機関が立地しにくい地域等の初期救急や回復期医療等、身近な医療を継続して提供する体制の両立を図る

	区分	対象人口	機能分化・連携強化の方向性	病院等
基幹病院 <small>(高度・専門医療)</small>	センター	120万人	県全域のセンター機能	中央
	機能集約・強化	10万人以上	現在の医師の体制等の強み・特徴を生かし、ハイボリュームセンターとしての機能と役割を果たしていくため、がん医療等における高度・専門機能を集約・強化	中部、胆沢、磐井、大船渡
	ケアミックス・連携強化	4～5万人	カバーエリアの広さや、地域の医療資源の状況から必要となる幅広い機能（ケアミックス：高度・専門医療～身近な医療）を他の基幹病院と連携して対応	釜石、宮古、久慈、二戸
地域病院 <small>(地域医療)</small>	準広域	3～4万人	地理・人口に応じた基幹病院と地域病院の中間機能	遠野、千厩
	地域密着	1～2万人	地域包括ケア病床により入院に対応しながら、かかりつけ、在宅医療等の身近な医療を提供	東和、江刺、大東、高田、大槌、山田、一戸、軽米、
精神科病院			精神医療	南光、一戸、大船渡
地域診療センター			地域のプライマリケア機能	沼宮内、紫波、大迫、花泉、住田、九戸

※センター、機能集約・強化型の病院に、高度・専門的な手術機能等を集約し、症例数の確保を進めながら、状況を分析し、基幹病院の統合整備等、更なる施設整備の検討を進める。

《各病院の機能分化・連携強化について②》

基幹病院	センター	中央	<ul style="list-style-type: none"> ○センター病院として、県内における高度・専門医療の中核を担う ○手術支援ロボットの導入 ○久慈・二戸圏域を含めたがん治療の拠点として症例数・手術数を集める
	機能集約・強化	中部	<ul style="list-style-type: none"> ○リニアック増設（サイバーナイフ（県内初））で、県外に流出していた医療需要に対応 ○麻酔科の強化による手術件数の増加を図る
		胆沢	<ul style="list-style-type: none"> ○HCUを整備し、新たに高度急性期機能を担う ○手術支援ロボットの更新による高度・専門医療の実施
		磐井	○脳神経外科の胆沢からの集約による症例数の集積
		大船渡	○循環器内科、脳神経外科の釜石からの集約による症例数の集積
	ケアミックス・連携強化	宮古 久慈 二戸	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で必要な診療科の常勤医確保に全力 ○がんにおける高度・専門医療等は、センター、機能集約・強化型の基幹病院と連携を強化 ○圏域外に流出している回復期の医療需要への対応強化 ○久慈病院のリニアック等については、更新時期にあわせて集約
釜石		<ul style="list-style-type: none"> ○急性期は大船渡病院と連携し、回復期（リハ等）を強化 ○リニアック等は、更新時期にあわせて中央（大船渡）に集約 	
地域病院	準広域	遠野 千厩	○初期救急や一定の専門診療科（透析等）に対応しながら、主に回復期を担当
	地域密着	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケア病床による入院受入と、在宅医療や検診等の身近な医療を担当 ○十分な機能を発揮していない専門診療科の整理も実施
精神科病院			○長期入院患者の地域移行、精神科訪問看護や認知症対応等、地域の医療ニーズに対応
地域診療センター			○地域におけるプライマリケア機能の維持（役割を終えた紫波地域診療センターは廃止）

《病院の建替の方向性について》

- 老朽化が著しい釜石病院及び遠野病院については、優先的に整備を進めることとし、機能分化・連携強化の方向性に沿って、機能と規模を見直しながら、計画期間中（R7～R12）に建替（いずれも現在地（周辺）を想定）に着手
- 病院の機能や病床規模は、周辺の医療資源の状況や今後の医療需要の見込み等を踏まえて総合的に検討

釜石病院



(昭和52年整備)

《想定する主な機能等》

- 二次救急医療機関として、交通外傷等への対応や救急患者の初期治療等を実施
- 周産期、脳卒中、心血管疾患等における高度・専門医療は、疾病・事業別医療圏の設定にあわせ、大船渡病院と連携して対応
- がんは、検診や手術、薬物療法による標準的な治療や、緩和ケア、在宅療養支援等を中心に対応。
- リニアック等の高度医療器械は、大船渡病院に集約

遠野病院



(昭和55年整備)

《想定する主な機能等》

- 地域病院（準広域）として、地域で必要となる交通外傷等への対応や救急患者の初期治療等を実施
- 一定の専門診療科（透析等）を設けつつ、地域病院として、地域包括ケア病床の設置等による地域包括ケアシステムへ参画
- かかりつけ、在宅医療等の身近な医療を提供

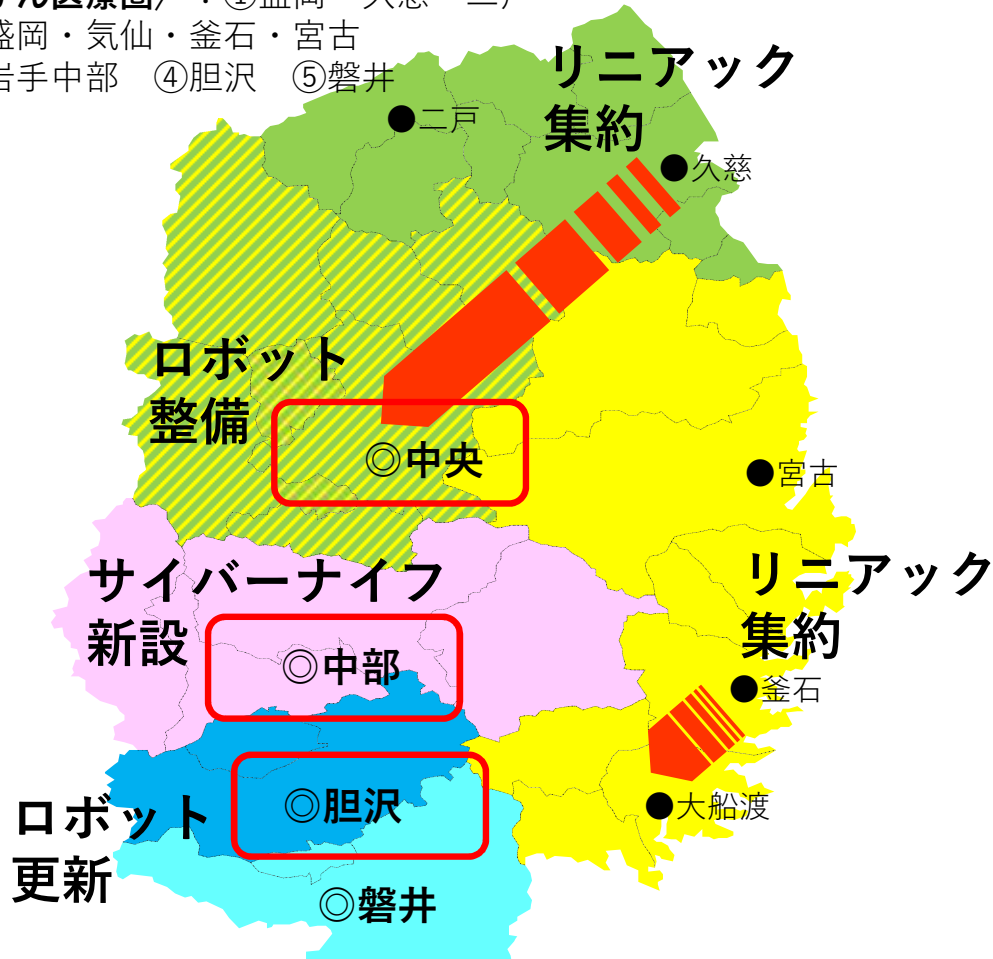
《医療器械整備について》

- センター、機能集約・強化型の基幹病院等に、高度医療器械（手術支援ロボット等）を重点整備
- 機能分化・連携強化の方向性に沿って、連携強化・ケアミックス型の基幹病院の使用頻度が少ない高度医療器械（リニアック、血管撮影装置等）については、他の基幹病院と連携して対応することとし、器械の更新のタイミング等で、集約。MRI等、高度医療器械の整備にあっては、病院ごとに必要スペックを精査。

重点整備・集約する主な医療器械

- 〈がん医療圏〉：①盛岡・久慈・二戸
②盛岡・気仙・釜石・宮古
③岩手中部 ④胆沢 ⑤磐井

- 〈脳卒中医療圏〉：①盛岡 ②岩手中部
③胆江・両磐 ④気仙・釜石
⑤宮古 ⑥久慈 ⑦二戸

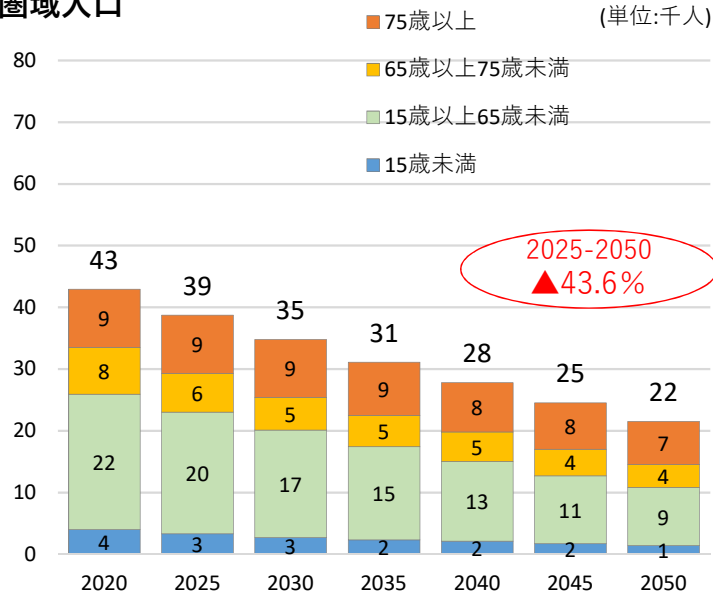


◎高度・専門的ながん医療を行う病院
●身近ながん医療を行う病院

◎高度・専門的な脳卒中治療を行う病院
●身近な脳卒中治療（初期治療、リハ）を行う病院

釜石圏域

圏域人口



資料：都道府県別将来人口推計（令和5（2023）年推計）
国立社会保障・人口問題研究所

【圏域の特徴】

- 受療率が高い65歳以上人口は、横ばい(2025:15千人→2030:14千人)
- 復興道路の完成により、大船渡市や盛岡市等との移動時間が短縮
- 県立病院以外にも、回復期、慢性期の病床が一定程度存在

【病院の特徴】

	釜石病院	大槌病院
診療科	内科、脳内、消内、循内、小児、外科、整形、形成、脳外、心外、泌尿、産婦、眼科、耳鼻、リハ、放射、麻酔	内科、外科、整形、皮膚、眼科、リハ
病床機能	急性期180	回復期50
研修等	救急輪番、専門研修連携施設	

地域医療構想の状況

(単位:床)

機能区分	R5.7.1現在	R7予定	R7必要病床数	差引
	A	B	C	B-C
高度急性期	0	0	31	▲ 31
急性期	240	196	130	66
回復期	217	169	165	4
慢性期	334	334	223	111
休床等	5	0	-	-
合計	791	699	549	150

資料：岩手県病床機能報告（令和5年度）

【方向性】

	釜石病院	大槌病院
基本方向	・ケアミックス・連携強化型の病院として、幅広い医療機能に対応しつつ、高度・専門医療については大船渡病院等と連携	・地域密着での医療提供
機能分化・連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・機能分化・連携強化の基本方向に沿い、適切な規模・機能で計画期間内に建替着手 ・地域で必要な診療科の常勤医確保に全力 ・疾病・事業別医療圏に対応し、更新時期等のタイミングでリニアック等の高度医療器械を大船渡に集約 ・産後ケアの実施 ・圏域外に流出している回復期の医療需要への対応強化 	・在宅医療等の実施